

保護司国際研修に参加して

熊本保護観察所 保護司 吉田 幸子

平成25年度第2回保護司国際研修への参加決定の通知とともに、その研修に関する実施要領の連絡が12月初旬に届きました。その内容から国際高官セミナー参加者の方々に日本の保護司活動を紹介することがこの国際研修の目的の一つであることもわかりました。活動紹介とセミナー参加者の方々の意見交換会に向けて、資料の作成、準備をしました。

平成26年1月21日は冬らしい晴天に恵まれました。国連アジア極東犯罪防止研修所に入所後、所長挨拶、オリエンテーション、広報ビデオなどでこの研修概要もわかりました。

午後2時30分、7名の保護司も席につき、教官の流暢な英語で第156回国際高官セミナー参加者との意見交換会が始まりました。保護司のプロフィールの紹介に続き、保護観察事例、被害者対応事例の紹介及び活動紹介を行いました。それらについて、外国人参加者の方々から被害者の感情の問題、また若い人たちがなぜ活動に参加していないのか等要点を捉えた質問がありました。私達保護司の説明の足りない点は教官と日本人参加者が助言や補足をして下さったことで、理解していただけたのではないかと思います。私達にとっても気付かされることの多い、貴重な体験でした。

夕食会では、各国の参加者、教官の方々と楽しく会話できるように配慮されていたので、和やかな雰囲気の中かで写真を撮ったりしながら話も弾みました。

続いての懇親会では日本の竹とんぼを飛ばしたり、カラオケ、歌とダンスでおおいに盛り上がりました。特に外国人参加者は前日から「上をむいて歩こう」を練習して、今日歌うことを楽しみにされていたとのこと。ギターの伴奏で全員で楽しく歌いました。最後に肩を組み輪になって歌った「We are the world」は皆の心がひとつに繋がったという思いをしっかりと伝えてくれました。

2日目は、ブライアン・スティールズ博士の「犯罪防止と犯罪者の処遇のために」という講義を聴講しました。同時通訳のおかげで、国際研修の雰囲気を味わいながら受講することができました。ブラジルからの参加者は博士への質問で「私は実践したいと思っているが、ブラジルの犯罪者の多くは貧しい人々で、貧困が大きな壁となっている。」と話されました。博士はできることからしていくようにと答えられました。それぞれの国の実態と抱えている問題を知ることが出来たのも国際研修ならではのことでと思います。

夕食会で会話を交わしたパプアニューギニアからの参加者とは朝食のときにもお会いし、いろいろな話を聞くことができました。彼は中国やイタリアへも行

ったことがあり、研鑽を積んでいる方でした。今回日本に来て、日本人のホスピタリティに大変感謝していると話されました。このような交流はとても楽しく印象深いものでした。

今回の保護司国際研修に参加させていただいたことで 多くのことを学びました。保護司制度は日本だけと置いていたが、フィリピンそしてタイなどでも行われていること、そのために日本の多くの方々が尽力されていることも分かりました。犯罪予防を考える上で視野が広がり、今までとは異なった視点で見る大切さに気付かされました。アジアの司法や更生保護に関わっていらっしゃる方々が、各国のセミナー参加者をはじめ保護司国際研修参加者に広く温かい心で接して、導いてくださったことに心から感謝致しております。また、各地から参加された保護司の方々の活動にも大いに刺激を頂きました。今後の活動に生かしていきたいと思っております。この研修の2日間はとても楽しく、充実した時間でした。

最後になりましたが、所長はじめ教官の方々、職員の皆様の細やかなお心遣いと温かいおもてなしに心からお礼を申し上げます。出迎えそして見送りまでしていただき本当にありがとうございました。